

第1節 移り変わるまち

発展するターミナル型

商業拠点

人口増や人々の活動範囲の拡大は
交通結節点のポテンシャルを高めようとしている

横浜市の人口増を背景として、ターミナル駅
利用者はますます多くなりつつある。

郊外部の拠点地区となっている上大岡駅、戸
塚駅の1日当たり乗降客は、昭和51～61年度の
10年間で、それぞれ4万2000人(29%)、2
万9000人(21%)増加した。上大岡駅に比
して戸塚駅の伸びは低いようだが、62年5月に
市営地下鉄線が接続しており、今後同じような
水準になるものと思われる。

いっぽう、鶴見駅はずっと減少傾向にあった
ものの、人口の増加傾向を反映して、58年頃か
ら微増傾向にある。

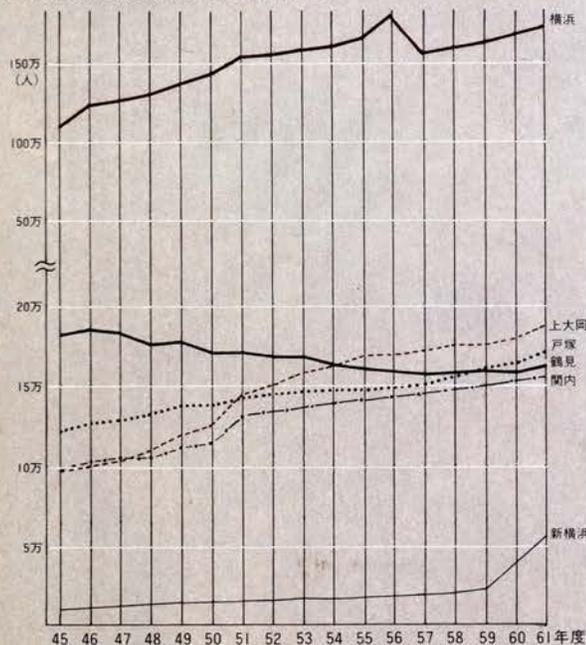
田園都市線をのぞいて、市内を放射状にのび
る鉄道の結節点となっている横浜駅では、同じ
ように、57年～61年度の4年間で約16万人(10
・3%)増え、61年度は約172万人にたっし
ている。同じ期間の、関内駅での1万2000
人(8・2%)増に比べ、大幅な伸びをしめし
ている。

これらのことから分かるように、今後ともタ
ーミナル駅への乗降客の集中化傾向は続き、そ
れにもなって商業にたいする潜在需要も拡大
するものと考えられる。

そして、その周辺地区
では、再開発などにより
商業・業務などの集積が
なおいっそう進み、地域
での拠点性が今後ますます
高まるのではないだろ
うか。

また、鉄道と鉄道の結
節点だけでなく、鉄道と
バスなどの道路交通との
結節点となっている綱島
青葉台、三ツ境などの駅
でも商業集積が進んでお
り、今後とも拠点性が高
まるものと思われる。

■主要駅乗降客数の推移(1日平均)



横浜駅の57年度の減少は、東西自由通路
完成に伴う計算方法の変更のため

横浜市「横浜市統計書」「統計横浜」



横浜駅、朝のラッシュ